

る力」を育みたい。「生きる力」とは、自分で主体的に解決する力を持つことであり、そのために親は子どもに何をすればいいのか。まず、「体力」をつけること。「我慢」をすることを教えることとありました。

はどうすればいいのか、しっかりと考えて子育てをしていきたいものです。「切れる」「ムカつく」などは、自分の思い通りにならない現象のひとつだろうと思っ

「アンビ校区」コミュニティ

今泉盛剛

昨年「生涯学習まちづくりフォーラム」。久々に刺激を受けた研修だったような気がいたします。

子育ては、最終的に「家庭の問題」、「親の責任」である。とよく聞かれることばです。また同時に、家庭の教育力の低下を危惧する声も多く聞かれるようになりまし



や社会教育の機能で正していく。簡単でないことは誰もが理解するところ

て、実践の中心を各学校に求め

連携を呼びかけ、子どもたちの見守りを地域に働きかけ、社会に期待しているのが現状です。須恵町で各小学校区が取り組んでいる「校区コミュニティの推進」こそが、子どもたちのすこやかな成長を願い、地域での子育てにつながる保育所・幼稚園・小学校・中学校と家庭とが連携強化し住民の皆様

このことは、須恵町の取り組みが学校を拠点としたまちづくり、地域づくりの実践であり、各組織の力量が問われること

また、人をつくり、町をつくる、社会構造の基本土台となる家庭の姿、家庭の教育力の現状を

須恵町の「校区コミュニティ」の実践が、人(健常者・障害者)と自然が共に生きる「共生のまちづくり」。

となる体力・社会で生きるための耐性・規範の厳守・基礎学力・思いやり・やさしさ等を持ち合わせた総合的な人間の形成であるということ

てきています。

近年の日本の子育てについて、特に家庭では、子どもの立場に

た教育では、子どもは「自立」し



厳しい経済情勢が続いている中で、子育てをしている親にとっ

「子育てをする親の役割」

須恵中PTA会長 楠林政文

断し、家庭、社会で役に立つ人に育てるには、客観的な視点で大人として、社会としての立場

児童教育の専門家、学校関係者、それと子どもの祖父母(親の両親)、いろいろな方の話を聞き、相談し、指導していただき、

のおじさん・おばさん・お爺さん・お婆さんたちから見守られて育ってきたものです。

このように生活環境でも、子育てをする親は家庭で子どもと向き合い、コミュニケーションをとりながら教え・伝えることが親の役割であると思

私たちの子どもの頃は、近所

の「幼保二元化」。幼児と高齢者が共に生きる「幼老共生」等、社会福祉も視野にいれ、それぞれの立場でできることから相乗効果を生み出すような活動にな



は入りましたが、須恵町の良さ、須恵町本来の姿を見つめなおすために、町民の総意で断念した経緯があります。

「家庭教育について思うこと」

須恵一小PTA会長 梅野 猛

教育関係者から「今の子育てには、「生きる力」の育成が重要

しかし、そのことは漠然としており、具体的にどのようなことを意味するのか私自身あまり理解できず、受け手によ

今回は生涯学習まちづくりフォーラムに参加して、講師の三浦清一郎先生の講演を拝聴し、「生きる力」の意味が多少見えてきたような気がします。

の中で大切なことを何か忘れていないでしょうか。ここ数年、家庭教育だけでなく地域の方と子育てをする時代へと変わってきています。

子どもたちと関わりを持たれていきます。親も地域の方と関わりを深め一緒に考え学び、よりよい教育環境をつくることにより親として家庭・地域の役割が見えてくると思います。

みなさんいかがでしたか。今回は、昨年の生涯学習まちづくりフォーラムに参加された社会教育委員5人の方から、当日の感想や自らの子育てに関する思いを述べていただきました。

子育てに関して大切なことはたくさんありますが、基本は「家庭教育」ではないでしょうか。

子どものことをよく知ること

須恵町社会教育委員会